

令和5年2月9日

日高管内青少年体験活動推進事業

「ひだか未来塾」

令和4年度地域生涯活動実践交流セミナー 事例発表

発表者 様似町教育委員会 新出拓海

「ひだか未来塾」とは

～日高管内中高生の研修事業

対象：管内の中学校・高校に在籍する者 35人

内容：生徒向けの講演会、ワークショップ等の研修事業

目的：中学生・高校生が他町の参加者と交流、地域課題解決に向けた協議等をとおして、地域の良さを客観的に見つめる視野や、ボランティア活動等の地域活動に主体的に参画する意欲・態度を身に付けることを目的とする。

年1回実施。

実施に至る経緯

- ・ 道教委で実施していた「ジュニアリーダー」事業が終了したことから、管内2団体（日高管内社会教育職員研究協議会・日高管内社会教育主事会）の共催事業として、令和元年度から実施している。
- ・ 社会教育指導部会研修会も兼ねて実施し、実施費用は研修会予算から支出している。
- ・ 管内で役割分担（管内ブロック〔西部・中部・東部〕の持ち回りし、開催担当ブロックを中心に、管内全町が関わり事業運営にあたっている。

スケジュール

令和4年11月27日 浦河町総合文化会館

10 : 00 ~ 10 : 10	開会式 オリエンテーション
10 : 10 ~ 11 : 00	講演
11 : 00 ~ 11 : 10	休憩
11 : 00 ~ 12 : 30	事例発表①②
12 : 10 ~ 12 : 55	昼食休憩
12 : 55 ~ 14 : 25	ワークショップ
14 : 25 ~ 14 : 40	講評 閉会式

講演「SDGsとまちづくり」

講師 環境省北海道パートナーシップオフィス

溝渕 清彦氏



事例発表「地元の方々の取り組みからSDGsを考える」

事例発表① 「山放牧 アポイ豚の取り組み」

駒谷牧場 西川 雄喜 氏（様似町）



事例発表②

「日産のSGDsの取り組みと電気自動車による環境貢献」

株式会社札幌日産自動車静内店 片井 瑠偉氏



マイボトル・マイ箸の持参



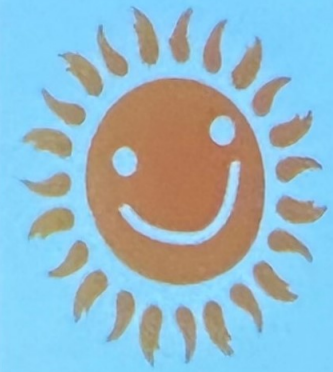


- ・ 道産の食材を使用
- ・ 食品ロスを意識したメニューづくり
- ・ ブルーシーフードと呼ばれるものを使用
- ・ 容器は紙製の物使用
- ・ 食材と食材の仕切りにはカップではなく野菜を使用

グループワーク

「持続可能な地域づくりのために「身のまわり」で
どんなことができるんだろう」





持続可能な未来のための ひだかアクションガイド2022

- ・生徒同士の交流を大切にしよう ～ 交流し、自分でも学ぶ
- ・自販機を使わず、マイボトルを持参しよう ～ 日高独自のデザインをつくる
- ・ごみが出ても、使えるものはできるだけ使う
- ・ものを大切にしよう ～ 本当に必要か考える
- ・差別をしない ～ 相手を理解したり、周りについてよく知る
- ・食べ物を残さない
- ・料理で使った油を排水溝に流さない
- ・節電のために、電気やストーブを無駄に使わない
- ・ポイ捨てをしない ～ ゴミ拾いをする
- ・緑を増やす
- ・制服を自由にとすること ～ 校内ディスカッションを役場に聞いてもらう
- ・SDGsについての意見交流をする ～ このような場を継続する
- ・声をかけあって、節電・節水する ～ ポスターを掲示する

グループワークの まとめ

各グループの口頭発表
を聞きながら講師が、
その場で作成し提示

参加者（中高生の感想①）

- S D G s について深く掘り下げて学習することがなかったので新しい知識が身についた。
- グループワークをとおして各地域・各学校の特色を知ることができた。
- 発言をしていくうちに緊張がとけ、有意義な討論をすることができた。

参加者（中高生の感想②）

- 他の人の反応がしっかりとあったので積極的に意見を出すことができた。
- グループワークでは、他校の生徒と交流し様々な意見を聞くことで、自分の考えを深めることができた。
- 学校等で「S G D s」を耳にする機会が多くなってきたが、自分たちの視点に立って学ぶことがなかった。学んだことを学校や保護者に伝えていき、少しずつ実践していきたい。

講師からの講評

できるだけ早い段階で発声する機会を持ち、相手に意識を向ける傾聴の機会を重ねることで、立ち上がって意見をかわすなど、関係性を構築することができたのではないかと思います。

どのようなふり返しをし、今後に活かしていくか楽しみにしています。



実践で難しいと思っていること（主催者として）

- 事業開始から数年経ち管内の事業として定着しつつある。
- 生徒の興味関心は様々であるため、限られた時間（実質半日程度）で何をどこまでを研修の目標とするか、十分な打合せ、プログラム設定が必要である。
- 学校教員の参加は求めているが、参画してくれると有意義だと思う。

改善のアイデア

- ・ 地域（日高）の課題
 - ・ 「防災（地震・津波など）」
 - ・ 「SDGs（環境の変化による一次産業の影響）」

などといった大きなテーマについて、参加者それぞれが自分のこととしてとらえ、地域での行動につなげられるよう、関係職員による事業内容の検討を継続していきたい。

実践から導きだされた社会教育職員の役割

- ・ 成果を広く周知し、活動に対する理解・関心を深める。
- ・ 管内各町・関係職員による事業として継続実施し、職員間の連携が深まるよう取り組む。